

## ご挨拶

多数のご参加ありがとうございました。

24日のエントリー数は過去最高の464名となりました。

今回の大会が足かけ16年で170回大会になるわけですが、今までの参加者総数は34500名で、経済効果は1億4000万円だそうです。

200回大会までは頑張りたいと思っていたのですが、健康には勝てず今回の大会が最終となってしまいました。

皆様ご承知のとおり、私どもの大会は毎月開催されていました。

夏だけに限ると平均250名の参加者とたくさんの方にご支援をいただきました。

支持された要因は、愛好者目線の大会を目指したということ、成績上位者だけが喜ぶ大会ではなく、成績がよくない人でも喜んでもらえる大会にしたということ。

また、ホームページを作成しそれが宣伝効果になったのではと思っております。

今回参加された皆様は、各地域のリーダー的な人が多いので、

私が今現在のパークゴルフ界の問題点と課題を提起していきますので、今後のパークゴルフ界を良くするためにぜひ検討いただきたいと思います。

私が今後パークゴルフで提案したいことは3つです。

・パークゴルフ人口をどう増やしていくかという問題です。

現在北海道には209の協会がありますが、70歳以上の会員が半数以上で新しいプレーヤーが入ってこないいわゆる限界協会が多数あります。

今後数年のうちに、無くなっていく協会がたくさんあるということです。

パークゴルフは、まだまだマイナースポーツです。メジャーに近づけていくためには広告宣伝し、パークゴルフ人口増をはかる必要があるのではないのでしょうか？

私や、萩氏が民間TVに出ていたころの、2003年～2004年ころには、パークゴルフを知らない人にも、ある程度、認知してもらえ(以前は、パークゴルフと、ゲートボールは同じもの的な見方をされていた)若い人にも、パークゴルフに関心をもってもらい、仲間が一気に増えた時期です。しかし、TV放映が終わってからは、いっさい宣伝はしていないのでパークゴルフ人口は増えていない気がします。

本部でも、予算を何とか、経費配分のところで何とかして、広告宣伝費を捻出してほしいと思います。TV、ラジオ、新聞、雑誌等での広告宣伝は、絶対に効果があると思います。

パークゴルフに携わるものにとって、パークゴルフ人口が増えるということは最大の光です。

また、本部、連合会、協会もスローガンとして底辺拡大のために新しい愛好者を募っていかねばならないとっていますが、一生懸命取り組んでいる組織と、どこかの組織がやってくれるだろうと本腰になっていない組織があるのではないのでしょうか？我々プレーヤーからは、具体的に真剣に取り組んでいるようには見えてきていません。

本気で、増やす気であれば、「交通安全週間」や、商店が、「販売促進月間」を設けているように「パークゴルフ愛好者加入促進運動」として期間を設け、一人の協会員が必ず一人の愛好者を入れるという政策をとるとか、何か具体的なものがほしいものです。

できれば、協会員以外の愛好者も全員が協力できる体制ができれば150万～200万人のパークゴルフ人口にすぐなるでしょうね。

現在、パークゴルフ人口124万人、協会に加入している人口は、北海道約3万人、本州約 29,000人の約 59,000 人だそうですが、協会離れがどんどんすすんでいます。

本当は本部の会員を多くしなければならないですが、よっぽど協会に入るメリットがなければこれからも、どんどん協会離れが進んでいくと思います。

愛好者目線から見れば本部も、連合会も、協会も同好会も同じことをしている。すなわち月例会という大会をしていてどっちに出るかという話なのです。

もちろん、それ以外の重要な仕事を各組織で行われていることは分かっています。

よっぽど抜本的な政策により、協会員をどんと増やし、組織強化を図れるとよいのですが、このままではどんどん協会に入らないで、気の合った仲間同士で遊んだほうが良いという傾向がより強まることが予想されます。現在の協会の月例会も今以上に参加者も減り、月例会も参加者少数のため中止しなければならないことになっていくかもしれません。

(特に過疎地の協会が大きな影響を受けると考えられる)

協会も、月例会を廃止する方向も視野に入れ、原点であるパークゴルフの正しい普及、パークゴルフを、はじめたい人の教育、管理、パークゴルフ場でも、はじめたばかりの人にも優しく「邪魔だからどけ」などという人がいなくなるような環境づくり等、今までとは違う別な重要な仕事をすることを考えていかなければならないような気がします。

### ・ジュニア育成とパークゴルフアカデミーの設立という問題です。

「三世代交流スポーツ」すばらしいスローガンです。パークゴルフは肩書なしに年配の方と一緒にプレーすることもできるし、自分が審判であるということで、ジュニアの人間形成には素晴らしいスポーツだと思います。小、中、高校にパンフレットの配布を行い、宣伝強化すべきだと思います。サッカーにしる、野球にしる、どんなスポーツでもジュニア育成の重要性を認識し、ジュニアスクールに力を入れています。

1 部の学校や、病院で、新聞等に「パークゴルフを取り入れた教育」をしていると記事が出ることがありますが、たまたまパークゴルフの好きな先生や、医者が取り入れて取り組んでいても、ほとんどが単発で終わっていて継続されていない。それは、指導者が圧倒的に少ないからです。

もったいない！そこに、人材派遣するなりして輪を大きくしていかなければなりません。

今後の発展は、ジュニアの育成と、裾野の拡大とはっきりしています。

将来的には、小学校選手権、中学校選手権、高校選手権、大学選手権大会ができるようになったら本当のメジャースポーツになったといえるでしょう。

それには、教育の必要性というものが大事になってきます。

そこで、出てくるのが、私が切望していた「パークゴルフアカデミー」の設立です。

簡単にいえば、パークゴルフの学校です。本部主導で開催するのか、民間に任せるのか難しいところがありますが、大きくパークゴルフを普及、発展させるには絶対に必要です。

これは、ティーチング資格制度で、人に教えられるインストラクターを育て、各地に派遣もできるようにするのです。仮に将来、協会の月例会が廃止されるようになったら、各協会の役員がアカデミーで教育を受け、自分たちの地域でパークゴルフ教室の講師をして新人の受け皿となるようにすべきでしょう。

現在は、本部のほうから各協会に初心者教育を1年に2回程度実施するよう指示が来ていますが、マニュアルがないため、各協会にお任せの指導になっています。

しかし、私どもの研修会の経験上、最初にボールを芯で打つ爽快感、芝生を歩く気持ちよさを最優先で教えるべきです。その後、練習ラウンドの中でマナー、ルールを教えていくのです。逆に最初にマナー、ルールの講習から始める協会に出てくる新人さんは、ほとんど長続きしないでやめていきます。楽しさより、苦しさや、拘束感があり、面白くないので長続きしないのでしょ

う。これ一つとっても、正しいマニュアルに基づいた指導が必要で、「パークゴルフアカデミー」がこれらを担うということです。

ジュニアや、パークゴルフをはじめとする人たちにパークゴルフの楽しさ、正しいスイングを教えることにより怪我を最小限に抑えるための教育をしていく。

そこに行けば誰でも、教えてもらえるようになるので、これから始める人たちにとっては、なじみやすく底辺拡大につながると思います。

#### ・ルールの共有の問題です。

昨年のJALカップ選手権大会の練習ラウンド中、ある選手からカジュアルウォーターの救済についての質問がありました。横幅の広い水たまりなので、上げ打ちで水の上を打ちたい。また、水たまりの中にボールが入ったが、水たまりの中に草の生えている部分があり、カップに近づかない部分なのでそこに救済を受けてプレーしたらどうだろう。誰かが、だめだといっている人がいるのだけど……というのです。そこで、20~25人くらいの各地域の選手に、どのように処理していると聞いたら、一人を除きそれは、合法で、今までその形で処理してきたというのです。結論は、カジュアルウォーターを避けていないので、ペナルティーとなってしまいます。

各地域のトップ選手が、今まで間違ったルール解釈をしてきたわけですが、各地の主任指導員も被害者なのです。ルールの説明、改正等は、今まで、文書通達で処理されていないものがあるようで、新しい主任指導員になっても、引き継がれていないルールが結構あるみたいです。

公認コースの認定のための引き継ぎが主になっていて、引き継がれていないルールは、主任指導員もわからないのです。したがって、末端のプレーヤーには伝わっていないのです。現在は、主任指導員を通してルールの質問をするようになっていますが、(協会員、個人の質問はダメ)質問をしてきたところだけには、説明をし、ほかの地域には、まったく文書はもちろん聞きに来たところだけには口頭で教える。という状況になっているといわれています。したがって、

あきらかに以前と違うルール解釈になっても質問をしていない地域では、本部から、文書で訂正がきていないから我々の地域は以前のルールを適用するといっているところがあり、ほかの地域のメンバーと大会等であった時にもめる原因になっているのです。

私のホームページは、協会員も見ている人もいますが、ほとんどが協会に加入していないプレイヤーが見ていて、ルールの疑問をぶつけてきてそれを集約したものが、虎の巻第53巻「必見！パークゴルフ・ルール問答集」です。

本当は、本部で作成して公開するのが筋だと思います。しかし、かなり忙しそうで作成できないと言われたら、できる人が作成しそれを本部が監修し共有してもよいのではないのでしょうか？ルールは、みんなのものです。

協会に加入していない人たちは、ルールが解らず本部に質問すると、各地に主任指導員がいるのでそこに、質問するように言われるそうです。しかし、どこに各地の主任指導員の連絡先が公開されているのでしょうか。それで、私のホームページの掲示板や電話、メールで質問が来るのです。

私の「必見！パークゴルフ・ルール問答集」を作成させ、ホームページで公開するのは、けしからんと、プリントアウトして、本部に郵送し、内容についても監修するよう要請した主任指導員がいるようですが、私が勝手に問答集の回答を作ったのではなく、本部、札幌連合会に監修してもらって公開しています。

内容を見て、監修してくれということは、自分たちと違った回答があるということなのでしょうが……もっと、大きな気持ちでパークゴルフの普及発展、ルールの共有を考えてもよいのではないのでしょうか？

今後もルール問題では、首を傾げざるをえないルールが残念ながらあります。

それらを、早く洗い直し、誰でもが納得のいくルール作りを主任指導員はじめかかわりのあるスタッフの皆様にはお願いしたいと思います。

最後になりますが、アップル社創業者スティーブ・ジョブ氏の印象的な言葉を送りお別れとします。

「もし、今日が最後の日だとしても、今からやろうとしていたことをするだろうか？」

自分は、まもなく死ぬという認識が、重大な決断をするときに役立つのです。なぜなら、永遠の希望や、プライドや、失敗する不安……これらはすべて死の前には意味もなさなくなるから。

「毎日をそれが人生最後の一日だと思って生きよう……」

※決して、本部、協会、パークゴルフを批判、中傷するものではありません。大病を何度も患い毎日を最後の一日と思い、大好きだったパークゴルフ界が良くなってくれるためと思ってやってきました。最後の眩きだと思ってください。永い間ありがとうございました。

平成 26 年 5 月 24 日 太田 昌亨